



平成 27 年 2 月 27 日

各 位

会 社 名 ジオスター株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 栗山 実則
(コード番号 5282 東証第2部)
問 合 せ 先 執行役員
経営管理部経理チームリーダー
古橋 義孝
(TEL 03-5844-1201)

子会社株式評価損の計上（予定）及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 9 月 26 日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

また、当社が保有する連結子会社株式の減損処理を行い、個別決算において「子会社株式評価損」を特別損失に計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 子会社株式評価損の計上（予定）及びその内容

当社の連結子会社であるレスコハウス株式会社は、消費増税後の反動減による住宅市場の落ち込みを受けて、受注が大幅に減少し、平成 27 年 3 月期において当期純損失の計上となる見通しです。これにより、同社の純資産額が著しく低下するため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、平成 27 年 3 月期個別決算において、「子会社株式評価損」として約 4.8 億円を特別損失に計上する見通しです。

なお、「子会社株式評価損」は連結業績には影響なく、また、年度末の同社の純資産額に基づく計上となるため、金額については今後変動する可能性があります。

また、今後、住宅着工戸数は住宅エコポイントの市場活性化対策等により持ち直しに向かうことが想定されると共に、同社においては、既に収益改善計画を立案の上、実行に着手しており、早期に収益立直しを図る所存であります。

2. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(金額単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	22,900	45	80	25	0円80銭
今回発表予想 (B)	19,700	△580	△490	△460	△14円70銭
増減額 (B - A)	△3,200	△625	△570	△485	—
増減率 (%)	△14.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	23,441	244	291	155	4円98銭

(連結業績予想の修正理由)

「1. 子会社株式評価損の計上（予定）及びその内容」に記載の通り、連結子会社レスコハウス株式会社の業績悪化に加えて、受注・売上時期の期ずれ等により、当社及び当社の製造子会社の業績も減収減益となる見通しです。

以上の結果、連結の売上高は減収となり、営業利益、経常利益及び当期純利益は赤字となる見通しです。

3. 平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	16,800	60	120	55	1 円 76 銭
今回発表予想（B）	14,300	△260	△175	△640	△20 円 46 銭
増減額（B－A）	△2,500	△320	△295	△695	－
増減率（％）	△14.9	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 26 年 3 月期）	16,646	130	209	112	3 円 61 銭

（個別業績予想の修正理由）

「2. 連結業績予想の修正理由」に記載の通り、受注・売上時期の期ずれ等により、個別の売上高は減収となり、それに伴い、営業利益及び経常利益は減少する見通しです。また、当期純利益につきましては、「1. 子会社株式評価損の計上（予定）及びその内容」に記載の通り、「子会社株式評価損」が特別損失に計上されるため、6.4 億円の赤字となる見通しです。

なお、かねてより準備を進めて参りました東京外かく環状道路につきましては、一部受注が内定し、それを含めました平成 27 年 3 月期の土木事業分野全体の現時点の受注高は約 350 億円（対前年約 2.2 倍）となる見通しです。

（注）上記予想は、現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上